

四街道市
多文化共生に関する区・自治会長向けアンケート調査
報 告 書

令和7年3月
四 街 道 市

I. 調査目的

四街道市の方向性を示すうえで地域の現況や多文化共生に対する認識を把握し、より市の現状に合ったプランの策定のための重要な基礎資料として活用することを目的とする。

II. 調査の実施状況

調査時期: 令和6年12月19日～令和7年1月10日

調査対象者: 区・自治会長87自治会

調査方法: 郵送配布、郵送回収

回収数: 86件

回収率: 98.9%

III. 本集計結果を読む際の留意点

- ・各設問の回答率(%)は、小数点第二位を四捨五入し、小数第一位まで表記しているため、単数回答の設問の回答率の合計が100%にならない場合があります。
- ・回答には、単数回答と複数回答があり、複数回答は回答率が100%を超える場合があります。なお、複数回答の設問の回答率の合計欄はブランクとします。
- ・図表中の「n」は、その設問への回答対象数を表しています。

IV. 集計結果

1. 自治会の状況

問1. 貴区・自治会に外国籍住民はいますか

(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	はい	43	50.0%
2	いいえ	24	27.9%
3	わからない	19	22.1%
-	無回答	0	0.0%
合計		86	100.0%

問1-2. (問1で「1. はい」の方) 貴区・自治会に外国籍住民は加入していますか？

(n=43)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	はい	27	62.8%
2	いいえ	13	30.2%
3	わからない	3	7.0%
-	無回答	0	0.0%
合計		43	100.0%

問1-3. (問1-2で「1. はい」の方) 貴区・自治会に加入している外国籍住民の世帯数と国籍を教えてください。

* 複数回答可

(n=27)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	アフガニスタン	8	29.6%
2	中国	11	40.7%
3	ベトナム	1	3.7%
4	フィリピン	4	14.8%
5	台湾	1	3.7%
6	インドネシア	1	3.7%
7	韓国	3	11.1%
8	タイ	0	0.0%
9	スリランカ	0	0.0%
10	ネパール	0	0.0%
11	ミャンマー	0	0.0%
12	バングラデシュ	1	3.7%
13	ウガンダ	0	0.0%
14	マレーシア	1	3.7%
15	パキスタン	1	3.7%
16	モンゴル	1	3.7%
17	ウズベキスタン	0	0.0%
18	ブラジル	1	3.7%
19	ロシア	0	0.0%
20	インドネシア	0	0.0%
21	そのほか	3	11.1%
-	無回答	4	14.8%
合計		41	

問1-3. そのほかの回答

(n=3)

バルト三国
欧米
アラブ系
中華系

2. 外国籍住民とのつきあいについて

問2. 区・自治会として貴区・自治会で生活する外国籍住民と交流する機会がありますか(または過去にありましたか)。

(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ある	22	25.6%
2	ない	51	59.3%
3	わからない	11	12.8%
-	無回答	2	2.3%
合計		86	100.0%

問2-2. (問2で「1. ある」の方)どのような交流か教えてください。

(n=22)

地区の夏祭り、盆踊り、もちつき大会等の行事
区神社初詣
区費納入
ゴミゼロ運動、集積所の掃除当番、小中学校での雑草刈り
防災訓練、避難訓練
街区の班長をになってもらった
子供会への参加
理事会に招待し、自治会活動の話をする(予定)

問3. 外国籍住民のことで困っていること(または過去に困った経験)、地域住民からの意見や苦情等がありますか。

(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ある	23	26.7%
2	ない	43	50.0%
3	わからない	11	12.8%
-	無回答	9	10.5%
合計		86	100.0%

問3-2. (問3で「1. ある」の方)それはどのようなことですか。

* 複数回答可

(n=23)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ゴミの問題	19	82.6%
2	騒音や地域での過ごし方	7	30.4%
3	自治会への未加入	6	26.1%
4	ペットの飼育	0	0.0%
5	コミュニケーションの問題	9	39.1%
6	そのほか	4	17.4%
-	無回答	0	0.0%
合計		45	

問3-2. そのほかの回答

(n=4)

区在住者でない自動車ヤードの経営者及びそこでの就労者による騒音、ゴミ投げ捨て等
交通マナー、違法駐車
回覧板が回らず代わりに回さなければならない

問3-3. (問3で「1. ある」の方)問3-2の問題解決のために貴区・自治会で行っている(または過去に行った)対応策はありますか。

(n=23)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ある	13	56.5%
2	ない	9	39.1%
-	無回答	1	4.3%
合計		23	99.9%

問3-3. (「1. ある」の方)どのような対応ですか。 (n=13)

ゴミの問題に関する外国籍住民への説明
市役所発行の多言語版ゴミ捨て案内の配布
看板の設置による注意喚起
対応言語での説明書等の作成、説明
アパートのオーナーに注意喚起等の要請
騒音を発する家への訪問、注意喚起
警察への相談

問3-3. (「2. ない」の方)何らかの対応を検討されていれば教えてください。 (n=9)

自動車解体ヤード等、ヤードの事業の増加を抑制すること
社員寮、研修生寮として使用しているため、困った時は会社へ連絡する

問3-4. (問3で「2. ない」の方)貴区・自治会において今後起こりうる困りごとや心配ごとはありますか。

* 複数回答可
(n=43)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ゴミの問題	21	48.8%
2	騒音や地域での過ごし方	7	16.3%
3	自治会への未加入	20	46.5%
4	ペットの飼育	2	4.7%
5	コミュニケーションの問題	19	44.2%
6	そのほか	1	2.3%
7	特にない	9	20.9%
-	無回答	3	7.0%
合計		82	

問3-4. そのほかの回答 (n=1)

自然災害時の対応策、言葉の問題

3. 区・自治会長としてのご意向

問4. 貴区・自治会で生活している外国籍住民に対し、区・自治会長としてどのようにお考えですか。

貴区・自治会に外国籍住民がいない場合は、今後外国籍住民が転入してきた場合を想定して
ご回答ください。* 複数回答可

(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	外国の言葉、文化・習慣を知る機会が増えると感じる	33	38.4%
2	外国籍住民と交流したいと感じる	19	22.1%
3	地域社会を担うパートナーが増え、地域が活性化すると感じる	10	11.6%
4	治安が悪化する可能性があり不安を感じる	28	32.6%
5	習慣や文化の違いによる衝突が起こるかもしれないと不安を感じる	43	50.0%
6	無関心や偏見により地域内に分断が生じるかもしれないと不安を感じる	16	18.6%
7	特にない	14	16.3%
8	そのほか	7	8.1%
-	無回答	1	1.2%
合計		171	

問4. そのほかの回答 (n=7)

ゴミや駐車問題などが増えそうである。
災害時の対応への不安がある。
自治会の存在自体を知らなかった。
安心して生活できる環境を作ってあげたい。
自治会に入会する意義の説明や言葉の違いに難しさを感じる。
高齢者とのコミュニケーション
自動車ヤードの出入者とその活動に問題がある。

問5. 貴区・自治会で生活している外国籍住民とともに暮らしやすい地域・社会にするため、貴区・自治会として外国籍住民にどのようなことを期待しますか。外国籍住民がいない場合は、外国籍住民が転入してきた場合を想定してお答えください。* 複数回答可 (n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	日本の文化や習慣などを理解すること	52	60.5%
2	日本・地域の生活ルールを守ること	70	81.4%
3	日本語を理解できるよう勉強すること	34	39.5%
4	地域のイベントなどに参加すること	37	43.0%
5	母語や文化を紹介すること	15	17.4%
6	区・自治会に参加すること	48	55.8%
7	挨拶をすること	46	53.5%
8	特になし	3	3.5%
9	そのほか	1	1.2%
-	無回答	0	0.0%
合計		306	

問5. そのほかの回答 (n=1)

区の住民については特に問題はない。

問6. 貴区・自治会で生活している外国籍住民とともに暮らしやすい地域・社会にするため、貴区・自治会ができることはありますか。外国籍住民がいない場合は、外国籍住民がいない場合は、外国籍住民が転入してきた場合を想定してお答えください。* 複数回答可 (n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	外国籍住民との異文化交流会の開催	9	10.5%
2	外国籍住民を交えた地域ルール検討会の開催	19	22.1%
3	外国籍住民とともに参加する防災訓練の実施	37	43.0%
4	外国籍住民に対する区・自治会の紹介・加入促進	34	39.5%
5	外国籍住民に対する区・自治会主催のイベントへの参加促進	39	45.3%
6	外国籍住民に対する交通安全教室の実施	5	5.8%
7	外国籍住民に対するゴミ出しや近所づきあいなどの生活情報の提供	60	69.8%
8	外国籍住民に対する日本語教室の実施	1	1.2%
9	日本国籍住民に対する異文化理解の啓発	4	4.7%
10	区・自治会として特にできることはない	8	9.3%
11	そのほか	2	2.3%
-	無回答	2	2.3%
合計		220	

問6. そのほかの回答 (n=2)

ヤード経営者およびそこでの就労者、出入するトラック運転者との意思疎通を図ること
現在の自治会では新たな創造は困難であり、既存の活動に理解・参加してもらいたい

問6-2. 問6で選択したことを実現するために、どのような支援が必要だと考えますか。 (n=86)

自治会の紹介、加入促進
イベントに参加した外国籍住民との積極的なコミュニケーション活動の実施
市内各自治体の文化財に関する、多言語による説明と注意喚起の表示
外国籍住民が気軽に参加できる行事等の実施
地域のルール説明、日常生活や地域の集まりの際のコミュニケーション
市主催の外国籍住民を交えた交流会の開催、外国人交流イベントへの補助金交付
通訳等のボランティア派遣、日本語教室の実施、多言語版文書による情報提供
言語、文化、習慣の障壁をとり除くことに関する支援
市によるゴミ出し方法の周知や自治会加入促進等の働きかけの定期的な実施
学校でのイベントへの参加等、子どもを通しての交流の促進
外国籍住民の地域差が大きい為、多い地区には転入制限を加える等の対応
市のホームページを(現在の4か国語の他に)多言語への翻訳が可能になればホームページを使用し様々なことを説明できる。
外国籍住民の努力あるのみ

問7. 地域の外国籍住民に対し、貴区・自治会に加入してほしいと思われませんか。

* 複数回答可
(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	強く思う	13	15.1%
2	まあ思う	36	41.9%
3	どちらとも言えない	26	30.2%
4	あまり思わない	5	5.8%
5	まったく思わない	2	2.3%
6	わからない	5	5.8%
7	そのほか	1	1.2%
-	無回答	3	3.5%
合計		91	

問7-2. 問7の回答の理由を教えてください。

(n=82)

1・2を選択した方	(n=49)
自治会に国籍は関係ないため、四街道市民であるため	
自治会員として伝達、要求が行いやすい	
地域の人々との交流を促進するため、共に生活し互いに支え合うため	
一方通行の支援ではなく本人自ら相談等に来てもらうため	
コミュニケーション不足によるトラブルを防止するため	
ほぼ全世帯が加入しているため	
共通認識、地域のルールの理解を深めるため	
地域で国際的な視点を生み出すため、多国の文化や考え方にふれる機会を増やすため	
3を選択した方	(n=26)
話のタネがみつからないため、相手のことがよくわからないため	
外国籍住民が人目を避け人前に出てこないため	
長期滞在者には加入して欲しいが、短期滞在者に求めるのは難しいと考えるため	
トラブルが起こるかもしれないから	
相手が加入を望まないのに促すべきではないと思うから、国籍に関わらず加入は任意だから	
外国籍住民の数が少なくあまり影響がないため	
現在、外国籍住民がおらず判断できないため	
4・5を選択した方	(n=7)
昔ながらの行事が多いため	
外国籍住民と関わりたいと思わないため	
新興住宅地域ではないため	
文化や習慣の差、考え方等あるため、いきなり親しくすることは難しいと考えるため	

4. 四街道市に期待すること

問8. 貴区・自治会で生活している外国籍住民とともに暮らしやすい地域・社会にするため、市はどのようなことをしたらよいと思いますか。

* 複数回答可
(n=86)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	区・自治会が外国籍住民に関する事項について相談できる市の窓口の設置	43	50.0%
2	外国籍住民が相談できる市の窓口の設置	52	60.5%
3	多言語版文書の情報提供	47	54.7%
4	日本国籍住民に対する多文化共生や外国籍住民に関する勉強会の開催	12	14.0%
5	日本国籍住民に対する多文化共生・異文化理解に関する啓発情報の提供	15	17.4%
6	日本国籍住民と外国籍住民がともに参加する防災訓練の実施	28	32.6%
7	区・自治会や日本国籍住民に対する「やさしい日本語」勉強会の開催	21	24.4%
8	区・自治会が作成した文書を多言語翻訳する支援	26	30.2%
9	区・自治会や日本国籍住民と外国籍住民の異文化交流の機会の提供	14	16.3%
10	外国籍住民に対するゴミ出しや近所づきあいなどの日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどに関する勉強会の開催	55	64.0%
11	外国籍住民に対する区・自治会への加入促進	32	37.2%
12	外国籍住民に対する日本語の学習機会の提供	17	19.8%
13	そのほか	6	7.0%
-	無回答	1	1.2%
合計		369	

問8. そのほかの回答

(n=6)

なんらかの形で全て必要あると考えるが、優先順位の設定が必要
既存の自動車解体ヤードから生じる騒音に対する指導監督の強化
第三者の設置、ガス抜き
3~6、10、12の取組を日本語学習機会の提供に集約し、定期的実施する

問8-2. (問8で「3. 多言語版文書の情報提供」の方) 具体的にどのような情報が必要だと思いますか。

* 複数回答可
(n=47)

No.	選択肢	回答数	回答率
1	ゴミ出しポスター、ゴミ出し情報	46	97.9%
2	防災マップ、防災案内	32	68.1%
3	交通ルール、交通事故に関する情報	19	40.4%
4	区・自治会に関する情報	35	74.5%
5	地域での過ごし方に関する情報	22	46.8%
6	警察や救急などの緊急時に関する情報	22	46.8%
7	病気やけが、病院、保険などの医療、健康に関する情報	23	48.9%
8	引越しや住宅に関する情報	6	12.8%
9	雇用、労働に関する情報	7	14.9%
10	災害発生時の避難情報	27	57.4%
11	戸籍、福祉、税金、学校教育など市や国の制度に関する情報	15	31.9%
12	そのほか	2	4.3%
-	無回答	0	0.0%
合計		256	

問8-2. そのほかの回答

(n=2)

騒音に関する情報
すべての設問が必要

問9. 地域における多文化共生を推進していくために、自由なご意見をお聞かせください。 (n=86)

外国籍住民が増加傾向にあると思うが、現状は地域住民と殆ど関わらないと思われる。このような状態が続くと、互いの文化の違い、誤解、偏見等により分断化が危惧される。地域住民との融合なくしてお互い安堵な生活が送れないため、先ず、地域の自治会、区会の入会を推進し、少しずつなじんでもらう他ない。市行政としてもこの辺を是非応援してほしい。
建売住宅が増えてそれらの人を区に加入させるのは無理なことと思う。また勧誘しても直ぐ意味がないと退会される。農村地区の人とは考えそのものが違うのかもしれないと思う。
町内としては、空き家をもっと活用してほしい。
四街道の市民憲章を教えればよいと考える。
当地区は市街化調整区域であるため、転入は難しいことから、不安は少ない。
外国籍住民が多くなっている中、治安、道徳等守れない？わからない方が多いと思う。地域に住んでいるので地域のことを理解してほしい。事件がないことを願うばかりです。コミュニケーションが必要だと思う。
異なる文化や習慣との交わる経験の乏しい日本人市民には、その取組によくよくの理解が必要であり、行政から説明が重要と思う。
現実には外国の方がいないので、これからの問題として自治会の例会(毎月)等で、準備していく。外国籍のわかる方の調査等で対応していく。
集合住宅の多い地区では、新入居者の把握は難しい。市からの情報入手が必要と思う。
今後多文化共生が必要となる場合は、先行する地域の情報入手の仲介や、全般的な御指導等市の御協力をお願いしたい。
数年前と比べ外国籍の住民が多くなってきているため、多方面に渡る検討を行い共存していくことが重要と考える。
早朝から夕方(AM7:00~19:00ごろ)までヤードの騒音、振動がひどく、多文化共生に関してはあまり気がすまない。又、地区のゴミステーションでは外国籍住民による不法投棄、分別されていないゴミ、などで困っている。
外国籍の方がそれぞれの国毎に、どんな考え方をするのが全く理解できていない。国籍毎の解説があれば提供してほしい。
自治会としては、国籍に関係なく、良好な隣人関係、地域でのつきあいが重要と考える。また、今後も自治会で国籍や出身地を把握する機会ほぼ無いと思う。
外国人との日頃からの交流、コミュニケーションの強化。
自治会内に外国人が転入して来た際には本人達に地域コミュニケーション向上の見地から「自治会に転入を伝える」事を承諾してもらい自治会長あてに「国、言語、家族構成」などを教えて欲しい。ほとんどの場合、地区のウワサ→班長から報告→注視して状況把握(この頃にはクレームが来始める・・・主にゴミ。)→対応策検討となる。子供がいれば、子供を通して日本語で話せる事が多く、言語がわかれば対策対応が可能。肌の色が違ったり、衣服文化の違う姿を見るだけで恐れてしまう高齢者も多い。
日本人は「郷に入っては郷に従え」とその土地ごとの習慣や風習を尊重し地域に合わせた生活をするが、共生する最低限のマナーを理解してもらう学習は住民登録する条件としてはいかがか。
外国籍住民イコール「トラブルメーカー」とは考えない姿勢が大切と思う。もし、トラブルがあった場合にすぐ対応できる窓口が市にあった方がよい
自治会としては、外国籍の方が多くなるほど問題が多くなる。自治会としてはメリットはない。
基本的には「郷に入れば郷に従え」の日本的な考えが必要で、表面的な、多文化共生や多様性を強調して推し進めると、トラブルや混乱が多発する恐れがある。この点に注意して、多文化共生の市政を行って欲しいと思う。
埼玉県川口市のように外国籍の住民と日本国籍の住民とのトラブル・暴力事件が多発しないよう慎重に進めるよう要望する。
日本の法律・ルール・生活習慣・文化を尊重し破壊しないことを基本としてほしい。
日本語を話せない方も多く意思の疎通がむずかしく、一緒に活動していくのはむずかしいと感じる。自治会は毎年、代表がかわるところが多く、代表の方針によっても対応が変わってくると思う。できれば、一貫性をもたせた対応があった方がよい。そのあたりを市で主導していただければ。

外国籍住民と一緒に地域で生活するためにはコミュニケーションをとることが一番大切だと思う。やはり、言葉で理解できるのが良いが、簡単ではないと思う。そこで、防災訓練、交通安全、スポーツイベント等、共通で参加できるイベント等から、つながりができるかも知れない。面識ができれば、少しずつ親密度、親近感が出てくると思われる。
同じ地域に居住する外国籍住民とも仲良く暮らし、安心して安全なコミュニティを維持できればと思う。そのために自治会に加入してもらい、交流する機会を通じて相互理解を深められればと思う。
外国人が住民登録をする際に、日本の生活ルール、習慣などの集会的な勉強会を開催してほしい。
住民どうしの相互理解、交流、また市によるそのサポート
自治会という組織のバージョンアップが必要だと思う。 国籍問わず自治会加入への意識は下がっているが、地域における自治会の役割は高齢化、多様化によってさらに増えてくると思われる。自治会の中核を担う人材がいらないのに役割は増えていく状況を改善しないと、地域のまとまりが維持できなくなり、多文化共生の推進は難しいと思う。 多文化共生の推進に重点を置くのであれば、優先度の低いところから削っていく、止めていくことが必要。業務の効率化、自治会加入のメリットを全面に出す、自治会未加入者にも寛容になり根気よく加入をお誘いするなど新しい自治会の形が求められるのだと思う。
地域に外国籍の方、外国にルーツを持つ方が増えることは悪いことではないと思う。ただ、日本人でも外国人でも、生活する上でのルール、特に身近なゴミの捨て方、騒音、交通ルールは誰でも守らなければならないことだが、言葉の壁があるとお互いに言えない、理解できないことは多くなると思う。個人や自治会でルールを説明することのハードルは高いと思うため、市で外国語の資料を公開して「正しいルールが伝えられるように、理解できるようにするなどの取り組みは継続してほしいと思う。
お互いの文化を尊重するも条例や様々ルールは理解が必要だと思う。